

研究説明書(保護者の方へ)

把握運動における道具有無の観点からみた利き手の機能的潜在性

研究実施者 共通教育センター 准教授・青木 朋子

1. 目的

本研究の目的は、利き手と非利き手の両方において、道具の有無、ターゲットや物体の大きさが異なるときの把握運動の動作特性を調べることです。この研究からは、利き手がどのようなメカニズムで生じるのか？なぜ、利き手が存在するのか？なぜ、ヒトには右利きが多いのか？といった疑問を解明する手がかりを得ることが期待できます。

2. 研究期間

生命倫理審査委員会承認後～令和7年3月31日

3. 利用する情報

実験では、利き手あるいは非利き手で物体を移動させたときの上肢と物体の動きを3次元動作解析します。また、筋電図計測解析システムを用いて、筋肉の活動を調べます。今回の実験で得られたデータは通常、全員を平均した値として使用しますが、個人ごとのデータを使用する場合にも個人が特定されることのないようにします。

3. 保護者の方へ

- 実験には2時間程度の時間がかかります。
- 今回の実験で得られたデータは通常全員を平均した値として使用しますが、個人ごとのデータを使用する場合にも個人が特定されることのないようにします。
- 論文等での研究成果の公表にあたっては、個人の情報(氏名、住所、電話番号、職業など)は一切開示しません。また、個々の研究対象者のデータを用いる場合にも番号表示のみとします。データの管理には独立した記憶磁気ディスクを用い、インターネットによるデータの共有は一切行ないません。また、データは、施錠したロッカーに保管します。データの保管期間は、研究を終了する令和7年3月31日から5年経過した時点、あるいは原著論文として公表する場合は、その最終公表から3年を経過した時点のいずれか遅い日までを保管期間とします。
- 新型コロナウイルス感染の予防のため、研究対象者が触れる机や筆記用具、実験装置は実験前にアルコール消毒します。また、同じ日に2名以上の実験は行いません。
- 実験の途中で何らかの理由により参加できなくなった場合にはいつでもやめることができます。その場合にも特に、不利益は生じません。

- 実験に関して質問や不安がある場合には遠慮なくお聞きください。
- 今回の実験で得られたデータは希望される方にはデータ分析後に結果をご報告しますので、ご希望の場合はおっしゃってください。

4. 連絡先

熊本県立大学共通教育センター

青木 朋子(096-321-6644) aoki@pu-kumamoto.ac.jp